

地域との思いが一致

《東京都立五日市高校「課題解決力の高い地域人を育成する『五日市メソッド』」同160人》

20年度から商業科の募集を停止し、2年次からは進学を見据えた「アドバンスコース」(120人)に加え、商業科を引き継ぎ起業のための体験活動を行う「マネジメントコース」(20人)と、アウトドア関連のインストラクターや指導者を目指す「アウトドアコース」(20人)の3類型を選択する学校改革を実施。「新しい社会に対応しながら経験的な学びを通じて地域に貢献できる人材を育成します」という基本理念も掲げた。

さらに文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」の事業特例校(地域魅力型)や東京都教育委員会「地域探究推進校」の指定を受け、開発しているのが「五日市メソッド」だ。

総合的な探究の時間(計5単位)で、地域を探究するグループを編成して、①行

政・企業と協働してフィールドワークを実施し、地域の魅力と課題を発見する②企業・大学と連携し地域の情報分析をして課題解決のための仮説を立案し、体験を通して実効性を検証する③検証の結果について発表し、地域活性化のための提言として社会に還元する——という活動を通じて、他者と協働しながら新しい時代に対応した価値を創造できる人材の育成を目指す。

学校が所在するあきる野市や隣接する日の出町、檜原村などの自治体をはじめ、あきる野商工会や青梅商工会議所なども連携。「地域の方々にも『一緒に盛り上げたい』という思いがあり、お互いの意図が一致したことも大きいですね」と加藤信義主



舗装されていない山道を走る「トレイルランニング」の運営方法について専門家から実地で学ぶアウトドアコースの生徒。人が人をシートで搬送する時、小石をシートの端に巻き付けると持ちやすくなって力が入ることを実感すると、歓声が上がったという=五日市高校提供

幹教諭は説明する。東京経済大学や嘉悦大学などとも連携して学びの充実を図れることも強みだ。

グランドデザインにはSociety5.0やSTEMAM(科学、技術、工学、芸術、数学)教育、持続可能な開発目標(SDGs)も位置付けている。学校を訪問した日、ちょうど学校周辺のフィールドワークを踏まえてSDGsを学ぶ1年生の授業が、4人のチームティーチング(TT)で行われていた。「SDGsという言葉聞いたことがある、という生徒は多いです。何も考えずに家と学校を往復している中にも、意外に気付きがあることを知った上で、興味を広げて探究してほしい」と、1年生メイン担当の磯野巖主任教諭は期待を込める。

20年度はコロナ禍もあって活動も何かと制限されたが、今春着任した久保田聡校長は「昨年度の蓄積を生かし、この1年間うまく回して、来年度以降につなげていきたい。目指す力が生徒についているのか、外部の方からの客観的な評価もいただき、探究活動を確立させたい」と話す。